ユネスコスクール（ASPnet）

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
UNESCO Associated Schools

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：２０１２年４月～２０１３年３月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、ＨＰ等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

１．学校概要

学校名　金沢市立弥生小学校

種別　□保育園・幼稚園　■小学校　□小中一貫教育
□中学校　□高等学校　□中等高等学校
□教員養成　□技術/職業教育
□その他（　　）

住所　〒921－8036
金沢市弥生１丁目２６－２

児童生徒数：男子　205　名　女子　202　名　合計　407　名
児童・生徒の年齢　7　歳～　12　歳

２．担当者

３．実施活動（複数選択可）

□　地球規模の問題に対する国連システムの理解
■　国際理解
■　世界遺産
□　平和・人権
■　環境
■　気候変動
■　生物多様性
□　エネルギー
□　防災
□　食育
■　伝統文化
□　そのほか（　　）

４．活動概要

１年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

活動時間について（下記から選択して下さい。）

■　通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

■　時間外活動の時間を使用　　□　ユネスコクラブの活動として実施

□　その他（　　）

１　ユネスコスクールとしての取組

■３年生　「命　見つめて」

一年間の飼育活動を通して、飼育動物の生態調べや飼育環境の改善に取り組んできた。ウサギやアイガモに関することを、本やインターネットで詳しく調べたり、獣医の先生やいしかわ動物園の飼育員等に直接尋ねたりしたことで、一人ひとりが自信を持って飼育活動を行えるようになり、一つの小さな命を守るために一生懸命お世話する姿が見られるようになった。この学習を生かして開いた「弥生ふれあい動物園」では、１・２年生に自分たちの飼育活動を見せたり、動物の特徴、餌のやり方や抱っこの仕方などを教えたりすることができた。このことは、自他の命の大切さを考える機会となり、友だちや家族はもちろん、地域の人々や動植物にまで優しく接する心を育てることにつながっている。

また、「人と人とつながるまち　金沢」では、金沢の伝統行事である盆踊りの一つ「百万石音頭」、現在も生活に根付く和菓子作りを体験したり、職人の和菓子作りの技を身近で見て学んだりする学習を行った。児童は、金沢が昔から日本でも有名な和菓子拠であり、和菓子には作った人や贈る人の思いや願いが込められていることに気づくとともに、この伝統文化の良さをこれからも大切にしていこうという思いを強く持つことができた。

■４年生　「金沢の残したいもの・伝えたいもの」

金沢の名所・史跡調べでは、にし茶屋街、長町武家屋敷、尾山神社など歴史的な町並みを実際に歩いて見て回った。にし茶屋街では、校区のすぐ近くに歴史的な町並みが残っていることに驚き、尾山神社では、神門の美しさや前田利家公の武将姿に見とれ、まるでタイムスリップしたかのようにお殿様の時代に浸っているような姿も見られた。こうした歴史的な町並みや史跡に実際にふれる体験が、その後の調べ活動や一人一人のミニ新聞づくり、交流する活動の原動力となったようであった。

また、金沢の伝統工芸調べでは、金箔の箔押し体験に取り組んだ。児童は、金箔のあまりの薄さに感嘆の声をもらすとともに、職人さんがいとも簡単に行っている作業がとてつもなく難しいことを実感し、職人さんの技のすばらしさに気づいたようであった。この本物との出会いが、子どもたちの興味・関心を高め、自分たちが選んだ伝統工芸について調べる活動においても、実際に工房やお店に取材に出かけ、職人さんにインタビューをして課題解決する姿が多く見られた。その中で職人さんの思いまで聞き取る姿も見られ、社会科をはじめとするこれまでの学習の積み重ねが、しっかりと子どもたちの力となって身についていることが感じられた。

■５年生　「環境にやさしい町　金沢」

「金沢の自然を見直そう」では、金沢の米づくりや加賀野菜づくり、犀川の自然などを見直した。まず、社会科の米づくりの学習の発展として、校区近くにある水田を調べた。弥生小校区には広い水田がなく、となりの三馬小校区まで出かけた。水田が身近でなかった児童にとって、農協職員からお話を伺ったり、用水でメダカを発見したりして、金沢の自然を見直すきっかけとなった。そして、実際に自分たちでも野菜を育ててみたいと考え、五郎島金時や金時草、加賀太きゅうりを栽培し、調理を工夫して味わった。

また、冬には金沢市環境政策課からサケの発眼卵をいただいて飼育した。毎日積算温度を測りながらお世話する中で、放流したサケが４～５年後に犀川に戻って来られるよう、金沢の自然をこれからも自分たちの手で守りたい、より豊かにしていきたいと考えるようになり、自分にできることを考える活動へと発展していった。

■６年生　「ともに生きる」

「みんなが過ごしやすい社会を創ろう～学校・地域・世界のために～」として、“学校のために”では、『やよいっ子宣言』を見直した。今年度は「思いやりの心で絆を深めていきます」を大きなめあてとし、毎月の児童集会ではその具現化を図ることで、自分達がお手本となって学校をつくろうとする姿が見られた。“地域のために”では、地域に住むお年寄りの方々が明るく元気に過ごせるようにと、春には観桜会を企画・開催した。また秋には、弥生小のことを知ってもらうために、「やよい動物園」や「スマイルデー」の紹介など、活動の様子を添えた新聞を届けた。初めは、どのようにしてコミュニケーションをとればよいのかがわからず不安そうにしていた児童も、お年寄りの皆さんの温かさに触れることで、ともに支え合いながら地域をつくっていくことの大切さを実感したようだった。

金沢学びタイムでの「金沢の魅力を探り発信！」では、金沢の名所や伝統工芸、ユネスコクラフト創造都市などについて調べる活動を通し、自分たちもこの金沢に住む一員として、歴史や伝統を受け継ぎ、金沢の未来を自分達の手で創造していきたいという意欲を持つことができた。

活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。※公表しません

□　紙媒体の参考資料（新聞、出版物など）　□　CD-ROM　　□　写真

□　その他（　　）